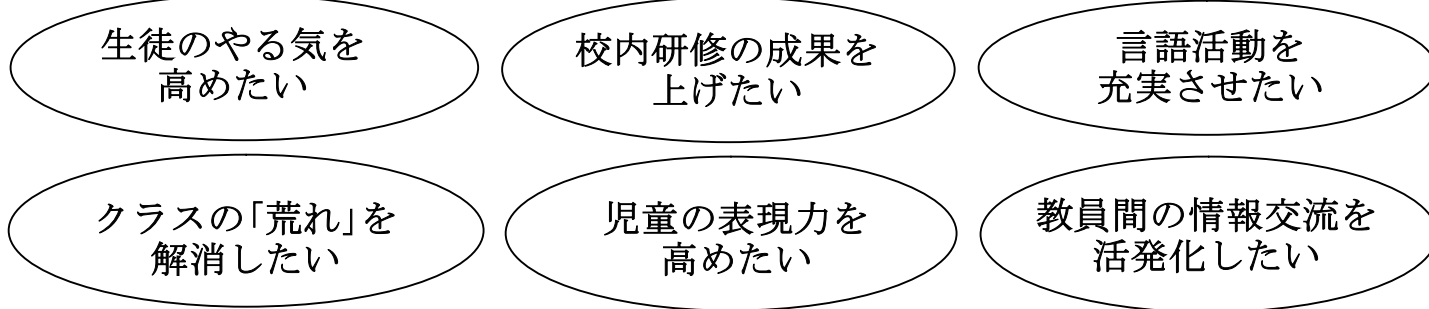


カリキュラム
マネジメント
講座

学校や授業の様々な課題の 解決への道筋が見えてくる!!

この講座では、学校や地域の実態を踏まえて、子どもたちを成長させるカリキュラムづくりや学校づくりの手法を講座やディスカッション、さらに成功した事例から学びます。目標の実現に向けて学校・教師は何をどう実践するべきか、そのための考え方や具体的な方法論を提示するのが、カリキュラムマネジメントです。

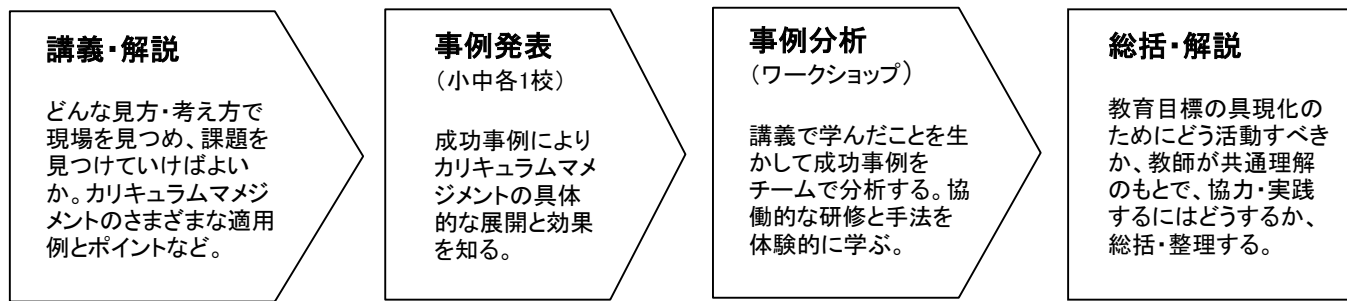
◆こんな課題の解決に役立ちます



◆昨年までの参加者の受講動機と受講後の感想

- 教員の多忙感の解消**…… 校内の先生方の多忙感解消のために何をすべきかが見えてきた。
- 学級経営の改善**…… 自分のクラスの課題がわかり、課題解決の道筋が見えた。
- 校内研修の充実**…… 特色ある学校づくりのヒントと組織的にカリキュラムをつくる方法がわかった。

◆講習の流れ



講師

●鳴門教育大学教職大学院教授 村川雅弘 ●山形大学准教授 野口 徹

講師からひとこと

この講座の特長は、学校現場と直接にかかわり調査をしてきた実践的なデータが豊富に盛り込まれた分かりやすい講話と、研修の流れ全体の工夫にあります。具体的な事例を通して考えることによって、カリキュラムマネジメントの考え方やモデルがさらに理解できます。こうした考え方を学ぶことにより、先進校の事例の具体的な手だての一つ一つが意味を持って、関連づけて理解することができます。



村川雅弘先生



野口 徹先生

●教員免許状更新講習に認定されています

本講座は、教員免許状更新講習の選択領域(6時間)の講習として認定されています。更新講習の受講者は試験があります。(15:45~16:45) 教員免許状更新講習は受講申し込み方法が異なります。詳細は事務局までお問い合わせください。

●参加費

一般:7,000円
学生:3,000円
(昼食代含む)

研修
主題

言語活動を充実させるための 授業づくりの工夫とICT活用

日時 8月2日(木)・3日(金) 9:15~16:30

会場 東京都 港区立三田中学校

参加費 2日参加 10,000円(会員:8,000円)
1日参加 7,000円(会員:6,000円)



吉崎静夫先生 赤堀侃司先生 黒上晴夫先生

8月2日(木)		8月3日(金)	
基調講演	言語活動を充実させるための 授業づくりの工夫とICT活用 日本女子大学教授 吉崎静夫	講演と事例発表	言語活動の充実につながる 思考力の育成をめざして 関西大学教授 黒上晴夫 (事例発表) 思考力育成のための取り組み 小学校、中学校計3校(予定)
講演	子ども達だけで どうして成績が上がるの? ~子ども達の学び合いパワーの凄さ~ 上越教育大学教職大学院教授 西川 純		事例発表と教育機器体験 以下から選択(詳しい内容は次ページ参照) H:思考スキルの育成をめざす授業づくり I:こんなときどう言い返す ~指導の優位性を保つための切り返しを考える~ J:子どもの気持ちを理解するために K:授業改善から学校力の向上へ ~教材教具から見えてくる支援のポイント10~ L:アクティブラーニングで 能動的な情報モラルをやってみよう(中) M:電子黒板や書画カメラで授業カイゼン
ワークショップ	事例発表と教育機器体験 以下から選択(詳しい内容は次ページ参照) A:総合的な学習の時間 単元計画見直し作戦 B:学級担任が指導する 作文の書かせ方(中) C:アクティブラーニングで 能動的な情報モラルをやってみよう(小) D:若手を伸ばす環境づくりのスキル E:学校の危機管理~体育・スポーツ活動での危機管理~ F:デジタル教科書体験 G:思考力・判断力・表現力の育成に資する授業づくり	ワークショップ	
特別講演	校内研究を通じて学校の教育力を高める ~新学習指導要領の実施に向けて~ 対談:大阪教育大学教授 木原俊行 国立教育政策研究所 千々布敏弥	特別講演	学力を向上させるための 教育方法とメディアの活用 白鷗大学 理事・教育学部長・教授 JAPET会長 赤堀侃司

*各講師の肩書きは、2012年5月現在のものです。 *プログラムは変更になる場合があります。

特別
コース

8月3日(金) ◆幼児教育実践講座
(詳細はフォーラム事務局にお問い合わせください)

◆カリキュラムマネジメント講座
(詳しい内容は最終ページ参照)



木原俊行先生 千々布敏弥先生 西川 純先生

小・中学校コース ワークショップの講師と内容

*各講師の肩書きは2012年5月現在のものです。(小)は小学校教員向け、(中)は中学校教員向けです。

8月2日(木)

A	総合的な学習の時間 単元計画 見直し作戦 ◆野口 徹 山形大学准教授	～子どもたちが「探究的な学習」を通して、「自己の生き方」を考える単元とは～ 平成14年の本格実施から、すでに10年の時を歩んできた総合的な学習の時間。各学校では、子どもたちに総合的な学習の時間において豊かな学習体験と確かな学力を与えることができているでしょうか。学習指導要領に示されたキーワード「探究」「協同」を中心に、子どもたちが「自己の生き方」を考えることができる単元計画づくりを、参加者によるグループでの協同的な活動を通して学びます。
B (中)	学級担任が指導する 作文の書かせ方 ◆池田 修 京都橋大学准教授	「はい、では昨日の運動会のことを作文に書いてください」。行事後に書かせる作文は、担任が指導することがほとんどです。国語が専門の教師であれば、指導はできるでしょう。しかし、国語が専門でない担任も指導はしなければなりません。これはなかなか難しい。さらに、新学習指導要領では国語科以外での「言語活動の充実」も求めています。本講座では、主に国語を専門としない教員を対象として、行事作文の書かせ方を学びます。
C (小)	アクティブラーニングで能動的な 情報モラルをやってみよう ◆榎本竜二 東京女子体育大学准教授	これから情報機器を持ち始める小学生には、世の中で発生する問題を自分のこととして理解させるのは難しいでしょう。先生方も教え方に悩んでいるはず。そこで、いま注目のアクティブラーニングの手法を用いた能動的な学習指導を実際に体験することで、授業そのものの改善とともに情報モラル教育の推進を図ります。
D	若手を伸ばす環境づくりのスキル ◆諸葛正弥 諸葛正弥教育総合研究所代表	団塊の世代が退職し、世代交代の中で若手の育成は非常に重要になっています。しかし、若手とのコミュニケーションギャップなどを感じられている方も多いかと思えます。それを解消するには、若手も主体的に研鑽をしようとする意欲を育てる環境を、学校全体で演出する必要があります。その環境づくりのコミュニケーション技術や関わり方のスキルなど、教員研修での実例を踏まえながら学習していきます。
E	学校の危機管理 体育・スポーツ活動での危機管理 ◆佐藤幸夫 東京都教職員研修センター教授	生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するため、学校では体育の授業や運動部の活動、体育的行事など様々な体育・スポーツ活動が行われます。一方、「運動を行う際は、事故などが起こることもある(学習指導要領解説 保健体育編)」ので、安全指導と安全管理が欠かせません。それでも万が一の場合、対応の不備が被害を拡大したり事態を悪化させることがあります。怪我や事故の原因を分析して怪我や事故を防止し、的確な対応の仕方について考えます。
F	デジタル教科書体験 ◆渡部 昭 前墨田区立文花中学校校長	指導者用デジタル教科書の実物に触れる研修です。実際の使用環境を想定し、電子黒板上でのデジタル教科書の操作を体験します。そうした体験に、先進事例におけるデジタル教科書活用の効果や課題、各デジタル教科書の特徴とそのねらいなどについての解説を交えて、指導者用デジタル教科書をよりよく知っていただきます。
G	思考力・判断力・表現力の 育成に資する授業づくり ◆木原俊行 大阪教育大学教授	本講習では、思考力・判断力・表現力を育成する授業(活用型授業)について、その基本的な考え方を確認するとともに、そのタイプを説明したり、全国の典型的な事例を解説したりします。また、グループ協議によって受講者間でそうした能力を育むための実践を交流してもらったり、各参加者に2学期以降の実践計画を策定してもらったりといった演習活動も導入します。

8月3日(金)

H	思考スキルの育成を めざす授業づくり ◆黒上晴夫 関西大学教授	新学習指導要領で重視されている習得した知識・技能を活用する学習活動や課題を解決する探究活動などにおいては、評価基準が曖昧になりやすく、結果として指導・助言にも不明確さが生じてしまいがちです。そうした内容における子どもたちの学習到達状況をきちんと評価するための評価基準をグループで話し合いながら作り上げていきます。
I	こんなときどう言い返す? 指導の優位性を保つための切り返しを考える ◆池田 修 京都橋大学准教授	学校教育現場では、子どもたちの思いも寄らない質問に、その場で咄嗟に答えられなければならない。返答を考えるために使える時間は5秒が限界でしょう。この指導の機会を逃すと、子どもたちは「あの先生は許した」、「あの先生に勝った」と勝手に判断します。本ワークショップでは、言い返しのための視点を考え、具体的な例題、参加者の事例を通してこの課題に挑戦します。
J	子どもの気持ちを理解するために ◆小澤康司 立正大学教授	人間同志の信頼関係や愛、コミュニケーションによって、私たちは、他者と調和的な関係を構築し、多様な問題を解決し、豊かで幸福な生活を築いていくことができます。本ワークショップでは、人が、気持ちを伝え、理解しあうために何が必要かを簡単な実験をしながら、一緒に学んでゆきます。人間がもつ心の働きを理解できるなら、すべてのコミュニケーションの場面で役立つことができます。
K	授業改善から学校力の向上へ 教材教具から見える支援のポイント10 ◆安部博志 筑波大学附属大塚特別支援学校地域支援部長	発達障害の子どもに配慮した授業は、すべての子どもにとって分かりやすく達成感のある授業です。このような視点から、本講習では学級づくりや授業改善に焦点をあてます。具体的、実践的な事例をご紹介しながら、ほんのちょっとした工夫でできる支援のポイントについてお話しします。元気になること請け合いです。具体的な教材教具も展示しますので、デジカメをお忘れなく。ご期待!
L (中)	アクティブラーニングで能動的な 情報モラルをやってみよう ◆榎本竜二 東京女子体育大学准教授	携帯電話やスマートフォンによる子どもの被害が拡大しています。しかし、自分や自分の身の回りに事件や事故が発生していないと、子どもたちは他人事として興味を持ちません。そこで、アクティブラーニングの手法を用いた能動的な学習指導を実際に体験することで、授業そのものの改善とともに情報モラル教育の推進を図ります。
M	電子黒板や書画カメラで 授業カイゼン ◆豊田充崇 和歌山大学准教授	普通教室等に整備された電子黒板・書画カメラを有効活用することでできる「授業カイゼン」について考えたいと思います。①現状の授業における不満や課題を抽出、②電子黒板や書画カメラ等の基本機能・特徴を捉える、③機器類をどう役立てれば授業が改善されるかについて、具体的な授業場面を元に検討していきます。各教科の目標達成に寄与し、且つ、二学期からの実践に活かせるようなワークショップを目指します。

IMETSフォーラム2012 参加申し込み書

■参加される方のお名前・ご連絡先等

ふりがな お名前	(会員参加費で申し込まれる方のみ) 会員番号	
郵便番号	ご住所	電話番号
ご勤務先	メールアドレス	

*本申し込み書にご記入いただいた個人情報は、IMETSフォーラム実施に関わる確認・連絡および当財団からのご案内以外には使用いたしません。

■参加区分と参加費 (希望される区分の□にレ印を入れてください。「学生」は内地留学を除きます。)

小・中学校2日間コース(木・金)	<input type="checkbox"/> 一般(10,000円)	<input type="checkbox"/> 会員(8,000円)	<input type="checkbox"/> 学生(3,000円)
小・中学校2日(木)のみ	<input type="checkbox"/> 一般(7,000円)	<input type="checkbox"/> 会員(6,000円)	<input type="checkbox"/> 学生(2,000円)
小・中学校3日(金)のみ	<input type="checkbox"/> 一般(7,000円)	<input type="checkbox"/> 会員(6,000円)	<input type="checkbox"/> 学生(2,000円)

カリキュラムマネジメント講座(金)のみ	<input type="checkbox"/> 一般(7,000円)	<input type="checkbox"/> 学生(3,000円)
---------------------	-------------------------------------	-------------------------------------

*小・中学校コース(2日)とカリキュラムマネジメント講座(3日)の両方の受講を希望される方は、参加費の割引があります。フォーラム事務局にお問い合わせください。

■お弁当の希望(小・中学校コース) (希望される日の□にレ印を入れてください)

<input type="checkbox"/> 2日(木)分を注文(700円)	<input type="checkbox"/> 3日(金)分を注文(700円)
--	--

*カリキュラムマネジメント講座参加の方のお弁当は参加費に含まれています。

■ワークショップの選択

	第1希望	第2希望
2日(木)		
3日(金)		

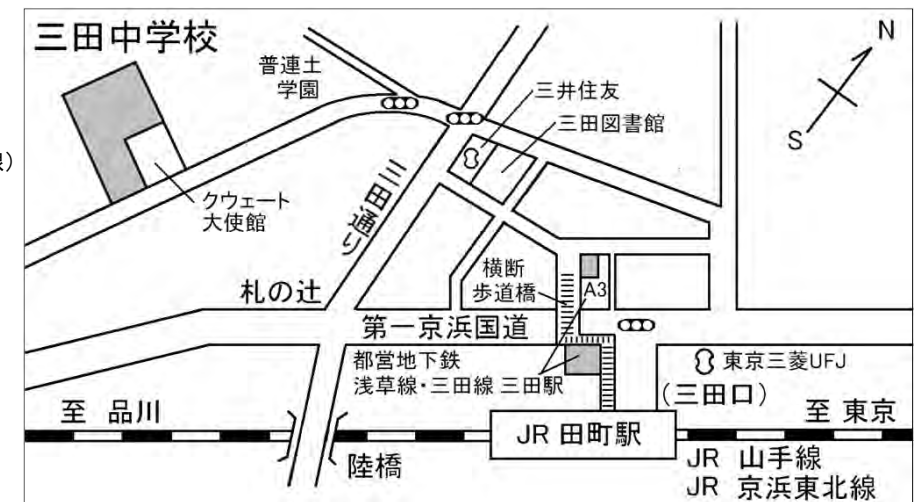
プログラムからご希望の講座を第2希望まで記号でご記入ください。

FAX 03-3756-0307

インターネットからのお申し込みは右のURLへ <http://www.sainou.or.jp/forum2012/>

■会場:東京都 港区立三田中学校
(東京都港区三田4-13-13)

アクセス:最寄り駅
「田町駅」(JR山手線・京浜東北線)
「三田駅」(都営浅草線・三田線)



■お申し込み方法

参加申し込み書にご記入の上、FAXしてください。
インターネットからも申し込みます。
<http://www.sainou.or.jp/forum2012/>
お申し込み者には、参加費の振込先、地図などをお送りいたします。

■お問い合わせ先

公益財団法人 才能開発教育研究財団
教育工学研究協議会 フォーラム事務局
〒146-0083 東京都大田区千鳥3-25-5 千鳥町ビル
電話:03-5741-1311 FAX:03-3756-0307
E-mail: forum@sainou.or.jp

主催:公益財団法人 才能開発教育研究財団 教育工学研究協議会
共催:(社)日本教育工学振興会 (JAPET)
後援(申請中):文部科学省、東京都教育委員会、港区教育委員会、
全国教育研究所連盟、民間教育研究所連盟、
日本教育工学会、日本教育工学協会、
(財)コンピュータ教育開発センター、
NPO法人日本教育再興連盟
協力:学研グループ各社、泉株式会社、エプソン販売株式会社、
日本アビオニクス株式会社

* IMETS:Improvement of Media Education and Teaching Studies